

次世代に避難体験継承

中学生避難所開設体験学習会

次 期噴火に備えて、噴火の体験を伝えていこうと8月7日虹田小学校で、町内の中学2年を対象に避難所開設体験学習会（教育委員会・

「避難所開設体験学習会」実施委員会主催）が開かれました。虹田、洞爺各中学校から

約50人が参加し、避難所開設や運営の体験のほか救命処置などを実践学習しました。同学習会は、昨年に続いて2回目。

昨年2月に洞爺湖町教育改善推進委員会は、洞爺湖町の子どもたちの「生きる力」を



2000年の噴火の体験を聞く中学生たち

育むとした提言書をまとめ、その中で特色ある教育部会が「地域の特性から、有珠山を中核とした防災教育の推進及び地域の素材を生かした教育活動の推進」を打ち出しました。教育委員会では、このような提言を受け、将来避けることのできない有珠山噴火を見すえて、あらゆる災害時に、避難する側だけでなく、

避難住民の受け入れや、お世話をする側として、積極的に行動できるような人材の育成を狙い、1977年有珠山噴火の日である8月7日に、同学習会を継続して実施していくことを決定しました。

避難体験の大変さを実感

体験学習会では、最初に有珠山火山マイスターの荒町美紀さんが「2000年の避難所体験」と題して、自身の避難体験をもとに、その生活の大変さを語りました。

当初自主避難のため、情報が全く入らず、どういう事態になっているのかわからずに不安であったことを話しました。

その後520人ほどを収容する避難所に入所しましたが、4月初旬ということもあり、まだ寒く体調をくずした

ことやプライバシーが守られず、着替えなどに困ったことなど、思うようにいかなかった日々を話しました。

最後に同じ避難所の高校生が、自身の子どもの相手をよくしてくれたことをひきあい、「中学生でもできることはたくさんあるので、避難者のために何か実践していつてほしい」と、思いやりの心とボランティア精神の大切さを訴えました。

避難所開設と救命講習会

講話の後、具体的な作業に取りかかり、まず7人、8人一つのグループとする班を7個編成し、避難者役班と役場職員役班に役割分担を決定。

その後役場職員班の指導の下、全員でマット、毛布などの物資の搬入、搬出、避難所の設営、段ボールでの簡易テーブル作りなどを体験しました。

段ボールを利用したテーブル作りでは、マニュアルの無い作業にとまどう場面もありましたが、グループでコミュニ



心臓マッサージの実践学習

ニケーションを取って完成させました。

午後からは、西胆振消防組合洞爺湖支署（加藤直幸支署長）の職員7人が説明役となり、心臓マッサージ、人口呼吸、AED操作の実技を学習しました。

役場職員班の担当リーダー、虹田中の和田遥翔君は「普段できないような体験だった。災害時には学んだことをいかしたい」と話しました。

虹田中学校の久保順平校長は「避難所設営、救命講習会と、生徒が目的意識をもって意欲的に取り組んでおり、おおむねよかった」と評価しました。